

Small Compact Performance 2016

スモールコンパクトパフォーマンス

13歳で初めてバンジョーを手にしてから、ディキシーランドジャズで使われる4本弦バンジョーを独学でマスター。日本で数少ないソリストとして演奏することのできる、日本で最も有名なバンジョー奏者。

第3回
上越文化会館
中ホール公演

全席自由

8/11(木祝)

開場15:30 開演16:00

青木研

AOKI KEN Banjo Crackerjacks

青木 研 KEN AOKI

4弦バンジョー
1978年千葉県流山市出身。
7歳頃、二村定一などの唄う「ジャズ小唄」(君恋し、私の青空、アラビヤの唄)をはじめとする、蓄音機やそこから流れる戦前音楽に親しみ、これらの曲に使われていたバンジョーのサウンドに特に強い魅力を感じる。
その後自分が以前より興味を持っていた音の正体がバンジョーということを知り、13歳で初めて憧れていたバンジョーを手にしてから、ディキシーランドジャズで使われる4本弦のバンジョー(テナーバンジョー、プレートラムバンジョー)をほぼ独学でマスターする。

・1995年前後、千葉県柏の東葛飾高校在学中より都内ライブハウスやホテルパーティーなどで演奏活動をスタート。
・都内ライブハウス、イベント、テーマパーク、内外 ジャズフェスティバル(神戸・新宿・横浜・岡崎・オランダ・アメリカ)、バンジョーフェスティバル、ラジオ、TV等で演奏。

2010年、アメリカ・サンノゼのバンジョー大会にヘッドライナーとして、2011年、FIGA主催の全米バンジョーコンペティションに、2013年はハンガリーで開催されたジャズフェスティバルにソリストとして招請される。バンジョー主体の演奏の他、数多くのディキシー・ランド・スイングジャズの演奏家をはじめ、ブルーグラス、ジャグバンド奏者、管弦楽団、吹奏楽団との共演、ソリスト、歌手等のサポートなど多種のステージを通して、若手No.1プレイヤーとして楽しきなステージングと華麗なテクニックで観客を魅了している。

・米JAZZ BANJO MAGAZINE、ALL FLETS、オランダBN/DESTEM誌、ジャズ批評社「ジャズ批評」JAZZLIFE誌、等で特集記事が組まれる。

・バンジョー奏法は、ディキシーランドジャズのスタイルはもちろん、当初からバンジョーシロ系の、エディー・ピーバディ、ハリー・リーサー、ベリー・ベクルをはじめ、あらゆる奏者からの影響を受ける。

日本では数少ない、ソリストとして演奏することのできるバンジョー奏者。

バンジョー!
クラッカーリックス



上越文化会館 ☎ 025-522-8800

上越文化会館

Supported by UNISONクリエイト